

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670400013		
法人名	社会福祉法人 双葉会		
事業所名	高齢者グループホーム 双壽園		
所在地	阿南市見能林町南林258-5		
自己評価作成日	平成24年9月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成25年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山崩れのない、洪水のない、津波のない、小鳥と共生の新園舎で、自然な家庭的日常生活の中で、地域と喜びを共有し、生活を活性化させ、安心と安定を図り生き生きと仲間と老いを楽しく暮らしていたっている。双葉会は地域の自主防災会に参加するとともに、独自でも自主防災会を作っている。災害時に地域の避難場所になっており、災害時には自主防災協力委員3名がおられ、避難のご協力をいただくことになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣に海水浴場や松林の広がる自然豊かな高台に位置している。災害時における地域の一時避難所として指定されている。利用者は、お互いを思いやり、優しい笑顔でゆったりと過ごしている。事業所独自の理念として“無条件の尊重”“皆平等にひとりひとりは特別に”を掲げ、日ごろの支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			双壽園 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	作り上げ実践している	事業所の理念として“無条件の尊重”“皆平等に一人ひとりには特別に”を掲げ、日ごろの支援に取り組んでいる。朝礼時に唱和したり、勉強会等の機会に話しあったりして、職員間で共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	努めている	事業所に地域の小学生やマンドリン演奏、餅つき、その他のボランティアの来訪があり、利用者との交流を行っている。同一法人の運営する併設の他サービス事業所との交流も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の各種役員を進んで引き受けている。高齢者福祉をテーマに地域座談会をもって話し合いを行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。家族の代表者や地域住民、市担当者等、様々な方の参加を得ている。議題にそって意見交換を行い、出された意見をサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	その様に取り組んでいる。	日ごろから、市担当者に相談を行ったり、要望や実情を伝えたりして密に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない。取り組んでいる。鍵はかけていない。	日ごろから、事業所では自由な雰囲気づくりに努めている。玄関や窓などもむやみに施錠することなく、利用者の自由な暮らしを支援している。身体拘束の廃止に関するマニュアルを参考に勉強会を行って職員間の共通認識を深め、実践へと繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員勉強会や外部研修会に参加。マニュアルも作成し周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			双壽園 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを通して職員会、勉強会で勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書に基づき、十分な説明を行い理解し、納得していただき署名捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させている。	月1回、家族が利用料の支払いに来訪された際、意見や要望を聞いたり、相談にのったりしている。利用者や家族から出された意見や要望等は、職員間で話しあって運営面に反映させている。意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映させている。	毎月、職員主催の勉強会を開催している。代表者と管理者も参加しており、職員の意見や提案を聞く機会となっている。職員の個別ノートを設けており、管理者と職員の交流に繋がっている。代表者や管理者は、職員から出された意見や要望を運営面に反映するよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	つとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立てて、外部研修会に参加したり、内部での勉強会、各部研修会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特にしていないが、双葉会には小規模多機能型の施設もあり、双葉会の中でいろいろ話し合い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			双壽園 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時にご家族とも一緒によく話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時など、十分な話し合いによりご家族の気持ち、求められている事を受け止めるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要ならば対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とお年寄りの関係は、上でも下でもなく五分と五分、日常生活の中で職員と同行し教えたり教えられたり、また助けたり助けられたりしながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との話し合いの中でその思いを自分のこととして受け止め、家族の代わりにしてあげられることをするという気持ちで介護している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援している。	同一法人の運営する併設の他サービス事業所の利用者と交流を図る機会が多い。また、演芸や美容公習、年中行事の餅つき、マンドリン演奏等の地域のボランティアを受け入れ、利用者との交流を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「いつもみんな家族」をモットーにしているので、丸い大きなテーブルを囲んでお話をしたり、時には散歩で車椅子を押したり、お世話を下さることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			双壽園 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところ対象がない。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	検討している。	サービス利用時の段階で、本人や家族と話しあい、暮らし方の意向や希望の把握に努めている。利用者一人ひとりが日ごろの生活でできることや得意なことを把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や暮らし方、大切な経験を聞き出し、それを介護にいかしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、ご本人の意見やお話し、また、担当者会議などを交えて、その人らしい介護計画を作成している。	家族の希望やサービス担当者会議で検討した内容、職員が気づいたことを介護計画書に反映している。利用者の状態変化に応じて、そのつど計画書を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録がありその情報を共有し、介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアハウスのカラオケクラブ、童謡クラブ、美容講習などに参加希望の人は参加されたり、また、ケアハウスの友人とも仲良く交流をされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			双壽園 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。2週間に1回協力医の往診、かかりつけ医への受診等、その都度全体の病気、健康管理などの助言をいただいている。	家族の協力を得たうえで、利用者一人ひとりのかかりつけ医の受診を支援している。定期的に事業所の主治医による往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、面会を欠かさず、常に医師、ご家族と連絡を取り、早期退院に向けて情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望を取り入れ、かかりつけ医と繰り返し繰り返し話し合い共有している。	本人や家族とは、サービス利用時の段階で、重度化した場合や終末期の方針について話しあっている。本人や家族の意向にそった対応を心がけている。緊急時の支援等に関する勉強会を開催したり、マニュアルを整備したりして、職員や関係者間共有化を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難マニュアルを作成。ケアハウスとも連携し取組み、災害時地域の避難場所になっているので、お互いに協力していけるよう取り組んでいる。	事業所は、災害時の一時避難場所として指定を受けている。年2回、地域住民の参加と消防署の協力を得て避難訓練を実施している。災害対策マニュアルも整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			双壽園 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルを作成し取り扱っている。対応できている。	職員は、事業所の理念“利用者を無限の尊重の気持ちで受け入れる”を意識して日ごろの支援を行っている。マニュアルに関する勉強会を実施したり、話しあいを行ったりして、職員間で共有化を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりが自分の思いや希望を表すことを大切にし、それを促すよう取り組みを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その様にして、入居者一人ひとりのペースを大切に、入居者中心に生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい服装・髪型に気を付けて支援している。月1回ある美容講習にもできるだけ参加してお化粧やマニキュアを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できている。	利用者は、食事前・後のテーブル拭きや片づけに参加している。職員とともに丸い大きなテーブルを囲んで食事をとっており、家族のような雰囲気がある。おやつづくりには利用者も参加しており、敷地内で栽培している季節の野菜や果物を取り入れて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士がお年寄りの希望も入れて立てている。食事摂取量、水分摂取量は記録し、一日を通して確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員全員が口腔ケアは健康維持に最も大切なことと認識している。毎食後のケアを確実に実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			双壽園 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンチェック表を用い、一人ひとりの習慣をいかして支援している。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を作成している。なるべくトイレで排泄できるよう支援している。また、トイレでの排泄が困難な利用者にも、表情の変化や習慣を活かして、自立に向けた支援へと繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートにより、一人ひとりのパターンを把握している。また体操、歩行運動他身体を動かすことや、飲食物の工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	くつろいだ入浴ができるよう工夫している。車椅子の使用や、仲のいい人とのゆっくりした入浴など希望を取り入れている。	少なくとも週3回は入浴することができるよう支援している。広くゆったりとした浴槽で、利用者一人ひとりで入浴してもらっている。利用者の体調に応じて入浴してもらっている。排泄の失敗時などにもそのつど対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握している。ご高齢の方は、1時間くらいの午睡をさされている人もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬時、ご本人を確認の上、必ず付き添ってゴクンと飲み込まれるまでケアしている。薬の目的、副作用、用法、用量等について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除洗濯物の片づけ、食事支度、草ぬき等生活歴を生かした役割分担をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に基づき、敷地が広いので好きな所へ散歩に行ったり、お花見や氏神さんや近隣へ出かけている。	利用者は、広い敷地内の散歩を楽しんでいる。お花見や神社参拝等、一人ひとりの希望と体調面に考慮したうえで支援している。また、地域の文化祭へ見学に出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			双壽園 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	松林の中の新しい建物で、ウグイスの声に耳を澄ましたり、広い庭で四季の花を楽しんだり、みなさん快適に過ごされている。	事業所の屋内には絨毯が敷かれており、利用者は履き物を使用することなく過ごしている。共用空間には明るい日差しが差し込んでおり、廊下の壁面に地域の方からいただいた写真や利用者の作った作品等を飾っている。玄関や食堂に季節の花を活けたり、窓を開けて風通しを良くしたりしており、自由で家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い食堂や広い廊下にあるソファーや長椅子、大きい円形テーブルなどでそれぞれ楽しめたり、また、グループで飼っている犬と戯れる人も多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使っていたベッドや椅子、鏡台、タンス等使い心地のいいものを持ってきておられる人が多い	利用者は、居室に馴染みの調度品や家具を持ち込んでおり、一人ひとりにとって居心地良く過ごすことができるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物すべて段差がなく、廊下居室はすべてカーペット、食堂はフローリングまた、各所の手すり設置等、それぞれの身体機能を生かす工夫をしている。		